白浜レスキューネットワーク通信 7～9 月号
〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8
TEL&FAX0739-43-8981
http://srnw.or.jp
e-mail　yabiumi@gmail.com
理事長　藤藪庸一
郵便振替 00920－6－85589　口座名：白浜レスキューネットワーク
紀陽銀行白浜支店普通預金 589389　口座名：NPO特定非営利活動法人
白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

7 月 1 日～7 月 31 日

電話件数 133 件
保護件数 3 件(男性 2 名、女性 1 名)
帰宅件数 2 件(女性 2 件)
共同生活者数 14 人
(男性 8 人、女性 3 人、高 1 名、中学 1 名、小学 1 名)

〇7 月 15 日男性保護。宝塚で自殺防止の活動をしている方から連絡があり、男性を一人保護することになった。共同生活に加わった。
〇7 月 22 日女性保護。
〇7 月 29 日男性保護。

8 月 1 日～8 月 31 日

電話件数 121 件
保護件数 1 件(女性 1 名)
帰宅件数 1 件(女性 1 件)
共同生活者数 13 人
(男性 8 人、女性 3 人、中学 1 名、小学 1 名)

〇8 月 5 日女性保護。
〇学生寮で生活していた高校生は、夏休みの間、自宅へ戻った。

9 月 1 日～9 月 30 日

電話件数 110 件
保護件数 2 件(男性 1 名、女性 1 名)
帰宅件数 2 件(男性 1 名、女性 1 名)
自立件数 1 件(男性 1 名)
共同生活者数 14 人
(男性 7 人、女性 3 人、高 1 名、中学 2 名、小学 1 名)

〇9 月 19 日男性を保護。警察で保護された男性を引き受けた。生活保護を受け、障がい者の施設でお世話になっていたので、元の生活に戻ることになった。
〇9 月 22 日男性を保護。数日滞在したが、年金をもとに大阪での暮らしに戻った。
〇学生寮に高校生と中学生が加わった。

生活自立支援活動

〇4 月に保護した女性は、まちなかキッチンで働くようになり、良さが出てきた。周りの人間の影響を受けやすく、だれと一緒にいるかで雰囲気もしゃべり方も変わるところがある。良い環境に置きながら指導していく必要がある。
〇昨年 9 月に保護し農業と保養所で頑張っている男性は、9 月にアパートへ移り自立した。自立後も農業と保養所の仕事に来てくれている。
〇4 月にアパートへ自立し、まちなかキッチンで働く 40 代男性は、9 月に入ってから、少しずつ調子が悪くなっている。仲間に対して高圧的な言動が目立つようになってきた。
〇まちなかキッチンで働く携帯やゲーム依存から抜け出せない 30 代男性は、仕事が終わった段階で形態を預かるようにしたことで、精神的に落ち着いて来た。本を読むようになり、運動するようになってきた。自分の課題に目を向けるようになった。この状態を続けられるか見守っている。
〇4 月にアパートへ自立し、まちなかキッチンで働く 30 代の男性は、6 月に共同生活していた時の部屋の片づけができないままだったので、みんなで片付けることにした。押し入れなどにゴミ袋に入ったゴミが山ほど出てくる状態だった。次の日の朝、配達の車の中で、居眠り出勤していないところを発見。そのまま数日

休むことになった。数日後、出勤してきた際に、皆に迷惑をかけたのだから一言お礼を言って復帰するようにアドバイスをしたが、全くできず、そのまま次の日から無断欠勤を始め来なくなった。7 月 5 日、給料日にも来なかった。数週間後、給料を取りに来た時に、町内のホテルで働いていると言い残して帰って行った。
現在、アパートの大家さんに確認したところ、4 月から家賃は一度も払っていない。敷金も一部しか払っていないとのこと。
共同生活の枠組みを外れた時に真価が問われるのだが、アパートへ移った後、生活を健全に保っていくことが本当に難しい。
〇まちなかキッチンで働く 20 代の男性は、父親への返済を順調に行っている。もともと精神的に豊かな愛情を受けて育ってきたのだろうなあと感じる育ちの良さがある。しかし、いい子にしてきたからだろうか失敗したり、叱られることに弱いところがある。
〇近くのアパートに引っ越したまちなか惣菜で働く 50 代女性は、保養所の朝食夕食を作る担当にもなり、活躍している。
〇まちなかキッチンとコンビニをかけもちしている 20 代女性は、変わらず頑張っている。
〇紀南こころの医療センターに通院している 50 代男性は、死にたい気持ち、消えてなくなりたい気持ちが消えることはない。部屋にひきこもり、食事だけ起きて来る状態を続けている。通院は続けている。生活保護で医療費が出ているので、アパートを見つけさえすれば、アパートへ引越しも可能になっている。また自己破産の手続きも始めているので、書類を整えさえすれば完了できるのだが、その気力がわかない。
〇独り言を言う女性は、病院にも通いながら、改善に努めている。掃除の仕事を行なっている。
〇家族で共同生活に加わった 40 代男性とその子どもたち(中学 1 年男子、小学 1 年女子)は、それぞれよく頑張っている。親子らしくなってきた。父親はまちなかキッチンで働いている。
〇1 月に保護した 60 代男性は、交換日記で情緒豊かな日記を書いて来るようになった。精神的に落ち着いてきたようだ。
〇保護観察処分中の男性は、まちなかキッチンで働きながら、頑張っている。
〇学生寮で生活を始めた高校生の妹も寮生活を始めてみようということになった。

自殺予防活動

・フードバンク、フードドライブ

グルメシティ白浜店、新庄店、東陽店、明洋店、万呂店、田辺ショッピングセンター、御坊店、各店舗のご協力をいただいている。

白浜町社協からお米の寄付を頂いた。

ふるさと納税の返礼品のお米だなどの寄付も沢山いただいている。

皆さんのご協力に感謝している。

・明誠高校和歌山白浜SHIP(定時制高校)

二年生3名、一年生2名。休みながらも続けて学校に通い続けている。前期のレポートやテストも無事に終わり、追試課題がでた生徒も、しっかりやり上げることができた。

毎週月曜日の課外授業は、料理などにも挑戦している。

・コペルくん

夕方行なわれているコペルくんは、3名の子どもが参加している。

新たに、和歌山いのちの電話の相談員、近所のお寺の住職の奥さんが、指導に加わってくださった。

・コペルくん夏休みサマースペシャル

夏休みの間、昼ご飯付き学習支援を行なった。全部で54名の登録があり、毎日20～30名の子どもたちが集まった。

・少年少女漂流隊

バームクーヘンづくり、臨海地区の探索活動などを行なった。

・くまのっ子児童家庭支援センターのこのこ

これまで80ケースの相談を受けている。
330件の事業説明をかねた訪問を行った。
210件の来所相談、訪問相談を受けた。
主な主訴は、不登校、発達の問題。
のこのこ広場(親子広場)
のこのこルーム(通旧指導教室)
などの働きを計画し進めている。